

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：82683

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K00074

研究課題名（和文）アバヤーカラグプタ著作の新出梵文資料校訂を通したインド仏教の学知形成様態の解明

研究課題名（英文）An investigation into the knowledge-formation process in the late Indian Buddhism through critically editing a newly available Sanskrit manuscript of Abhayakaragupta's work.

研究代表者

苫米地 等流 (Tomabechi, Toru)

一般財団法人人情報学研究所・仏典写本研究部門・主席研究員

研究者番号：60601680

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題は、後期インド仏教の碩学であるアバヤーカラグプタの主著『アームナーヤマンジャリー』のサンスクリットテキスト校訂を目的とする。併せて、その作業過程で蓄積される文献学的知見を総合することで、後期インド仏教コミュニティにおいて学知がどのように形成されたかを解明することを目指すものである。本課題の事業期間には、同文献第5-8章の基礎校訂テキストを作成し、対面・オンラインの国際研究会を通して内容の検討と校訂の精度を上げることを目指した。事業期間中の校訂テキスト公開には及ばなかったものの、作業過程で得た知見を活かした論文公開・学会発表等の成果をあげることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、後期インド仏教についての新たな知見を、11-12世紀に活躍した学僧アバヤーカラグプタの大著『アームナーヤマンジャリー』新出資料の検討を通して学界に提示する点にその学術的意義がある。事業期間中に同文献の校訂テキストを最終的な形で刊行するには至らなかったものの、校訂過程で得られた知見は各種論文・学会発表として公表され、これによって、インド仏教の学問的理解の前進に寄与できたと思われる。後期インド仏教に関する我々の知識には未だ空白の部分も多いが、それをわずかでも埋めることで、学界のみならず、間接的ではあるが一般のインド仏教理解の質を向上させることに寄与することにつながると思われる。

研究成果の概要（英文）：This project aims at establishing a critical edition of Abhayakaragupta's magnum opus, the Amnayamanjari, in Sanskrit. We also tried to elucidate the process of knowledge-formation within the late Indian Buddhist community on the basis of the philological information gathered in the course of editorial work. During the term of this project, we were able to prepare a draft edition of chapters 5-8 of the Amnayamanjari, and tried to gain deeper understanding of the text's contents and improve the accuracy of edition through several international reading sessions held both in person and online. Though we could not publish the critical edition before the end of project term, we nevertheless could publish/read a number of research papers based on the information gained in the course of editorial process.

研究分野：インド仏教

キーワード：アバヤーカラグプタ アームナーヤマンジャリー サンスクリット写本 テキスト校訂 学知形成 後期インド仏教 インド密教

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

2000年代に入るとインド仏教研究の分野においては、チベット、ネパール、さらにはアフガニスタン等由来のサンスクリット写本へのアクセスが従来に比して格段に容易となり、これら新出資料を用いた文献学的研究がにわかに活気づいた。本課題の研究代表者も、主としてチベット発現のサンスクリット写本を用いたテキスト校訂研究に従事してきたが、2017年になって、中国で2015年に影印出版された梵蔵バイリンガル写本が、11-12世紀にかけて活躍したインド仏教最後の碩学であるアバヤーカラグプタの名著『アームナーヤマンジャリー』の前半部であることに気づいた（影印出版に付された表題が不正確であったため、それまで研究者に看過され内容が同定されていなかった）。『サンブタタントラ』に対する浩瀚な註釈である『アームナーヤマンジャリー』は、取り扱うテーマが多岐にわたり、インド密教百科事典とも言うべき性格をもつきわめて重要な文献である。本課題研究代表者はそれまでも、ゲッティンゲン大学に所蔵されるサンスクリット写本断片一点が同書のものであることを発見し、本課題の研究分担者である加納と共同で同写本断片の校訂テキストならびに英訳を公刊した経緯がある。また、加納はその後アバヤーカラグプタの別の重要著作『牟尼意趣莊嚴』のサンスクリット写本に基づく研究にも着手した。一方、本課題の海外研究協力者であるハンブルク大学のIsaacson教授のグループも、『アバヤパッドァティ』を中心とするアバヤーカラグプタ著作の研究を遂行中であった。このようにアバヤーカラグプタの著作をサンスクリット原典に依拠して文献学的に解明するための条件と国際的な共同研究の機運が整いつつあったが、上記『アームナーヤマンジャリー』バイリンガル写本影印版の出版はアバヤーカラグプタ研究の新たなエポックを開く重要な転機であった。このような背景のもと本課題代表者は、『牟尼意趣莊嚴』研究に実績のある加納に加えて、アバヤーカラグプタの学系に連なる学僧ラトナラクシタの著作を研究してきた倉西を分担者として迎え、『アームナーヤマンジャリー』のサンスクリットテキスト校訂を主要な目的とする本研究課題を企画した。

2. 研究の目的

本研究課題においては、アバヤーカラグプタ作『アームナーヤマンジャリー』のサンスクリットテキストを、上記バイリンガル写本に基づいて可能な限り精密に校訂することを主たる目的とする。ただし、本書はきわめて浩瀚であるため、本課題においては、校訂対象を全40章(写本に保存されるのは第17章まで)中、第5-8章の4章に絞ることとした。テキスト校訂の作業過程においては、アバヤーカラグプタが依拠した先行文献や、彼自身の他の著作との平行文、後続文献における言及・引用などの情報を網羅的に収集する。この作業によって関係する諸文献相互の関係を明らかにし、『アームナーヤマンジャリー』の成立を歴史的コンテキスト上に位置づけるとともに、後期インド仏教コミュニティにおいてどのようにして学知が形成され、それが著作としての形をとって伝わり後世に影響を及ぼしたのかを解明するための知見蓄積を目指す。また、校訂作業にはTEI準拠のXMLを電子データのフォーマットとして採用するが、これはテキストデータの共有性・汎用性を高めるほか、サンスクリット文献へのTEI適用の可能性を検証するとともに、技術的な問題点を洗い出し、今後のさらなるTEI応用に向けてのテストケースとすることを意図している。

3. 研究の方法

上述のとおり、本研究課題ではテキスト校訂作業と、これに並行して先行文献・後続文献等についての知見蓄積をおこなう。具体的には、『アームナーヤマンジャリー』バイリンガル写本のローマ字転写データにTEI準拠のマークアップを施し、これを研究チームのメンバー（代表者・分担者・国内外の研究協力者）の間でクラウド上のストレージで共有、共同研究のためのオープンなプラットフォームとする。校訂作業の中心を担うのは研究代表者および分担者となるが、データを共有することでそれ以外のメンバーも校訂作業の進捗を確認できる。また、研究チームのメーリングリストを立ち上げ、校訂テキストについてのコメントを募り、関連文献等に関する知見の共有を図る。テキストは、『アームナーヤマンジャリー』の章・節および、註釈対象である『サンプタタントラ』の偈頌番号に沿って構造化され、異読・平行句・引用の出典等の文献学的情報と共に一元的なデータとして扱われる。この手法により、テキストデータ自体を『アームナーヤマンジャリー』の成立背景など歴史的コンテキストについての情報を含むオープンエンドな研究ノートとして扱い、研究の進展による新知見蓄積の場として活用する。成果の公開については、レガシーな紙媒体（PDF含む）での暫定的な校訂テキスト公表に加え、研究の展開に合わせてアップデートされる電子データでの公開も視野に入れる。

4. 研究成果

本研究課題の事業期間中に、新型コロナウイルス感染症パンデミックが発生し、本来2020年度末を以て完了するはずであった計画の見直しならびに事業期間延長を余儀なくされた。『アームナーヤマンジャリー』第5・8章の基礎的な校訂テキストは2018年度までに準備できており、2020年度中に対面での研究集会を開催し校訂テキスト公開に向けた最終チェックを行なうのが当初の予定であったが、これが困難となり進捗に影響が出たため、その後2023年度まで3度の事業期間延長を申請した。2022年ごろからパンデミックの状況はやや改善し研究環境も旧に復しつつあったものの、最終的な成果として校訂テキストを公開するまでに至らなかったことは悔やまれるところである。しかしながら、2021年度より研究体制のオンライン化が軌道に乗り、研究代表者・分担者が参画する他の科研プロジェクトと共催で、数回の国際ワークショップをオンライン開催することができた。パンデミック以前には対面で、ハンブルク大学での『アームナーヤマンジャリー』読解ワークショップ(2018年)および、ナポリ大学L' Orientale校主催の密教文献ワークショップ(2019年)などの研究集会で、当該分野で最先端の研究に従事するトップクラスの研究者たちと共にドラフト校訂テキストを検討できたが、その後のオンライン研究会の成果と併せると、テキスト校訂のための文献学的知見を相当程度蓄積することができたと言える。なお、延長した事業期間の間に、当初の計画ではさほど重視していなかった、註釈対象の『サンプタタントラ』のテキストを再検討する必要性を痛感し、『アームナーヤマンジャリー』と『サンプタタントラ』を並行して校訂するよう方針を修正したことも作業進捗の程度に影響している。また、アバヤーカラグプタが『アームナーヤマンジャリー』を著述するにあたり、そのかなりの部分の下敷きとしたカマラナータ作の『ヘーヴァジュラ註』も併せて検証する必要があることから、同註についてもTEI準拠のマークアップを施した電子データを作成し、クラウド上で研究メンバー間で共有しているが、これから得られる知見も今後校訂テキストに盛り込むことになる。現状、校訂テキストはドラフト段階にとどまっているが、これまでに蓄積した文献学的知見を反映した暫定テキストを可及的速やかに公開し、その後のアップデートを電子データ上でできればと考えている。校訂テキスト公開以外の成果発表の面では、本研究課題の遂行中に蓄積された知見に基づいた論文公開・学会発表等を相当数行なうことができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計29件（うち査読付論文 18件 / うち国際共著 14件 / うちオープンアクセス 23件）

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 87
2. 論文標題 一切衆生とは誰か 如来蔵経と涅槃経の場合	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本佛教学会年報	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 54
2. 論文標題 密教の卓越性 - Nayat rayapradipa 梵文校訂と訳注(4) -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集	6. 最初と最後の頁 67-82
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 倉西憲一	4. 巻 13
2. 論文標題 Sabaresvara著『本性成就次第』について一校訂テキストおよび内容概観	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 佛教文化論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 249/250
2. 論文標題 Nayat rayabhedaの縁起説 1-31偈の梵文テキストと和訳	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹、横山剛	4. 巻 27
2. 論文標題 梵文和訳『牟尼意趣莊嚴』 - 有情世間解説前半部 -	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 31-44
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉西憲一	4. 巻 55
2. 論文標題 サンヴァラ系諸文献を収録する一帙の梵語写本について スコイエン・コレクションMS2170収録文献	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 61-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 248
2. 論文標題 アバヤーカラグプタの大乗仏説論 - 牟尼意趣莊嚴論第4章から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 7-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、倉西憲一、伊集院菜、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 7
2. 論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第5章1-20偈 物語りと仮面劇	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 89-136
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄, 李学竹	4. 巻 53
2. 論文標題 大乘の卓越性 - Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注(3) -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集	6. 最初と最後の頁 71-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄, 李学竹, 横山剛	4. 巻 26
2. 論文標題 梵文和訳『牟尼意趣莊嚴』 - 器世間解説後半部 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 24-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄, 李学竹	4. 巻 52
2. 論文標題 声聞の離欲と菩薩の大悲 - Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注(2) -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 駒澤大学佛教学部論集	6. 最初と最後の頁 95-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄, 李学竹, 横山剛	4. 巻 25
2. 論文標題 梵文和訳『牟尼意趣莊嚴』 - 器世間解説前半部 -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インド学チベット学研究	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 70
2. 論文標題 NayatrayapradIpa, Nayatrayabheda, Nayatrayahrdaya 顕密の体系を概述する三点の梵文作品	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 インド学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 394 ~ 387
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4259/ibk.70.1_394	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊集院菜、加納和雄、倉西憲一、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 6
2. 論文標題 梵文和訳サマーヨーガ・タントラ第4章	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 33-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4. 巻 6
2. 論文標題 なぜ仏の姿の観想がさとりをもたらすのか(2)- Ratnaraksita 著Padmini 第13 章傍論後半和訳註	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 倉西憲一	4. 巻 64
2. 論文標題 インド後期密教における数珠 『サンヴァローダヤタントラ』第12章および註釈書『パドミニー』の校訂 テキストおよび訳註	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 豊山学報	6. 最初と最後の頁 111-128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 51
2. 論文標題 声聞による大乘の真実観批判 - Nayatrayapradipa 梵文校訂と訳注(1) -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 駒澤大学仏教学部論集	6. 最初と最後の頁 77-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 246
2. 論文標題 梵文校訂『牟尼意趣莊嚴』第一章 (fol. 64r2-67v2) 『中観光明』佚文・行者の直観知と無自性論証	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 5-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 59
2. 論文標題 普賢成就法1-54偈試訳	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 密教学会報	6. 最初と最後の頁 27-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄	4. 巻 52
2. 論文標題 アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集Subhadra	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 密教学研究	6. 最初と最後の頁 23-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kano, Peter-Daniel Szanto	4. 巻 5
2. 論文標題 New pages from the Tibet Museum birch-bark manuscript (1): Fragments Related to Jnanapada	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 27-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄, 伊集院菜, 倉西憲一, ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 42
2. 論文標題 梵文和訳サマ・ヨーガ・タントラ第2~3章	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大正大学総合佛教研究所年報	6. 最初と最後の頁 47-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kenichi Kuranishi	4. 巻 28
2. 論文標題 An Unidentified Work attributed to *Aryadevapada contained in NGMPP B31/6: Preliminary Edition and Notes	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 佛教文化学会紀要	6. 最初と最後の頁 67-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5845/bukkyobunka.2019.28_L67	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kazuo Kano	4. 巻 118
2. 論文標題 Syntactic analysis of the term tathagatagarbha in Sanskrit fragments and multiple meanings of garbha in the Mahaparinirvanamahāsūtra.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Asiatica	6. 最初と最後の頁 17-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 苔米地等流	4. 巻 1
2. 論文標題 Abhayakaragupta『Amnayamanjari』所引文献(3) 新出梵文資料第6-8章より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際仏教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 77-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 種村隆元、加納和雄、倉西憲一	4. 巻 4
2. 論文標題 Ratnaraksita著Padmini第13章傍論後半 Preliminary Editionおよび註	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 川崎大師教学研究所紀要	6. 最初と最後の頁 1-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加納和雄、倉西憲一、伊集院菜、ピーター・ダニエル・サント	4. 巻 41
2. 論文標題 梵文和訳『サマーヨーガタントラ』第一章	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大正大学総合佛教研究所年報	6. 最初と最後の頁 61-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 241
2. 論文標題 梵文校訂『牟尼意趣莊嚴』第一章 (fol. 61r5-64r2) 『中觀光明』世俗と言説および唯心説批判箇所佚文	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 密教文化	6. 最初と最後の頁 31-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 加納和雄、李学竹	4. 巻 2
2. 論文標題 Nayatrayapradipa 新出梵本の予備的報告	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of World Buddhist Cultures	6. 最初と最後の頁 125-140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計10件(うち招待講演 0件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Kazuo Kano
2. 発表標題 Three Nayatraya Texts
3. 学会等名 International Symposium on Eurasian and Buddhist Philology in Memoriam of Professor Tschen Yin-Koh at Tsinghua University (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 倉西憲一
2. 発表標題 アバヤカラグプタ学統について - 密教教理と実践の統合化をめぐる -
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加納和雄
2. 発表標題 中世チベットの僧院における梵文写本の蔵書への言及例：ポカン、リウォチェ、タクルン
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加納和雄
2. 発表標題 密教の小作品群を収める一梵本：チベット伝存の新出写本（アドヴァヤヴァジュラ編とされる密教の詞華集）
3. 学会等名 日本密教学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kano
2. 発表標題 A Survey of Passages from Rare Buddhist Works Found in the Munimatalankara.
3. 学会等名 A Workshop on Late Madhyamika Texts (Centre for Tibetan Studies of Sichuan University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kano
2. 発表標題 Closing verses of the Munimatalankara.
3. 学会等名 A Workshop on Late Madhyamika Texts (Centre for Tibetan Studies of Sichuan University) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuo Kano
2. 発表標題 Proto-Sarada Materials in Tibet: Move of manuscripts or scribes?
3. 学会等名 Sarada: Goddess, Learning, Script: On the Sanskrit manuscript culture of Kashmir (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Pascale Hugon, Kazuo Kano
2. 発表標題 The gateway to Tibetan scholasticism: A new collaborative project
3. 学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian-Japanese Cooperation Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Toru Tomabechi
2. 発表標題 Editing Buddhist Tantric Texts in the STTAR Project. A Progress Report
3. 学会等名 Philology, Philosophy and the History of Buddhism: 60 Years of Austrian-Japanese Cooperation Symposium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 倉西憲一
2. 発表標題 聖者流の新出写本 Aryadevaに帰されるテキスト
3. 学会等名 仏教文化学会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Kazuo Kano, Li Xuezhong (pp. 45-78)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 China Tibetology Publishing House	5. 総ページ数 458
3. 書名 Sanskrit Manuscripts in China III: Proceedings of a panel at the 2016 Beijing International Seminar on Tibetan Studies August 1 to 4 (Kellner, Kramer, and Li eds.)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加納 和雄 (Kano Kazuo) (00509523)	駒澤大学・仏教学部・准教授 (32617)	
研究分担者	倉西 憲一 (Kuranishi Kenichi) (90573709)	大正大学・仏教学部・専任講師 (32635)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	種村 隆元 (Tanemura Ryugen)		
研究協力者	菊谷 竜太 (Kikuya Ryuta)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
ドイツ	ハンブルク大学			
イタリア	ナポリ大学 L'Orientale校			
ハンガリー	ELTE エトヴェシュ・ロラード大学			
オランダ	ライデン大学			
英国	オクスフォード大学			